

第20回（令和元年度）

神戸大学大学院国際文化学研究科公開講座

ひょうご講座2019



受講者募集要項

芸術と多文化共生 その歴史と現在を考える

概要：グローバル化が進む現在、私たちの生活は今まで以上に多文化的になっています。芸術の分野も例外ではありません。諸外国との接触が急激に増えた19世紀半ばから、洋の東西を問わず、異文化の要素を取り入れた芸術作品が多く制作されてきました。今回の公開講座では、そうした芸術の歴史と現在について考えることで、多文化共生のヒントを探りたいと思います。

日程 令和元年**10月5日(土)**

13：10～13：20 開講式

13：20～14：50 第1回

「モダニズム芸術におけるプリミティヴィズムー普遍主義と相対主義の対話と葛藤」

松井 裕美（芸術文化論コース 講師）

講義内容：19世紀末から20世紀初頭の西洋の前衛芸術家たちは、アフリカやオセアニアの美術に触れ、新しいヴィジョンの可能性に目覚めた。こうして始まったのが「プリミティヴィズム」と呼ばれる傾向である。芸術家たちは、異なる文化の視覚言語をどのように分析し、理解したのか。その試みの到達点と、葛藤や矛盾に注目しながら、プリミティヴィズムの歴史と文化を紐解く。

15：10～16：40 第2回

「演劇と多文化共生のルール」

藤野 一夫（芸術文化論コース 教授）

講義内容：演出家・劇作家の鈴木忠志は東京を脱出し、富山県の山奥にある利賀村で演劇活動を開始。1982年には日本初の世界演劇祭「利賀フェスティバル」を創設し、今年は利賀でシアター・オリムピックスが開催される。テーマはCreating Bridges。現在のグローバル化され均一化されていく世界の中で、異なる文化や異質であることを尊重し、新しい共存のルールをつくるために「橋を架ける」。「リア王」などの鈴木演出を分析しながら、真の国際交流と多文化共生の場としての演劇＝劇場を考えたい。

■**受講対象者：**一般社会人、学生（中学生以上）

■**募集人数：**200名（先着順受付）

■**講習料：**無料

■**申込方法：**申込書（裏面）に必要事項を記入して、下記までFAX、郵送またはメール添付にてお申し込み下さい。研究科ホームページ（<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>）からもダウンロードできます。

※ご受講いただけない場合のみ連絡しますので、連絡がない場合は、直接会場にお越しください。

■**会場：**国際文化学研究科 B棟110教室（1階）

阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、「神大国際文化学研究科前」下車